

居室遮音リフォーム標準仕様書（概要 1/2）

1 遮音リフォームの考え方

室内で 90dB の音を出した場合、隣家や外部へ出る音圧を 45dB 程度に下げることが目標とします（数値は聴感補正無しの値）。

すなわち、概ね 45dB 程度の遮音性能を得る為に、既存の居室に 15～20dB 程度の遮音性能を遮音リフォームにより付加します。

注1 マンションの場合、上階・下階が存在しますが、部屋の居住性を損なうことなく天井・床の遮音性を 15～20dB 上げることは天井・床の構造上かなり困難です。

注2 屋内側については、屋外側に比べ、トータルの遮音性能は 10～15dB 低くてもよいと考えられます。

2 この標準仕様書の構成

概要（遮音リフォームの考え方、標準仕様書の構成、想定する居室）

工程

遮音性能測定

全体の仕様の考え方

天井（考え方、遮音材貼付図）

外壁・界壁（考え方、遮音材貼付図）

内壁（考え方、遮音材貼付図）

床（考え方）

クローゼット内部（考え方）

窓（考え方）

ドア（考え方）

換気（考え方）

コンセント他（考え方）

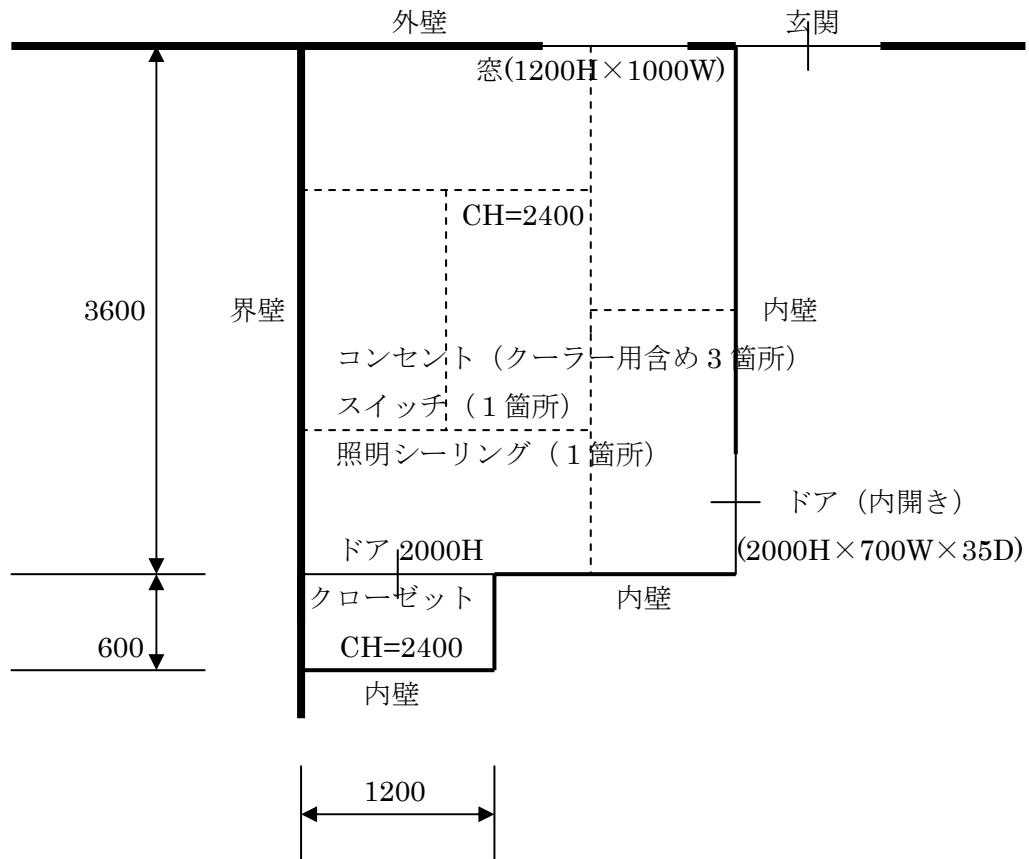
吸音の調節（参考資料）

照明演出（参考資料）

居室遮音リフォーム標準仕様書（概要 2/2）

3 想定する居室

RC造マンションの6畳間相当の部屋とします。



注1 室内に梁形、柱形があっても室内の見付面積は変わりませんが、施工手間は増えます。